

水面にひびく

香芝市
最古・最大という
旗尾池

閑静な住宅地が広がる閑屋。この美しく整備された街並みの中に、まんまんと水をたたえた旗尾池があります。旗尾池はその形が人間のてのひらにたとえられています。ちょうど五本の指を広げたように見えることからです。またこの池は周囲約二キロメートル、面積六・六ヘクタール。香芝市で最大の面積を誇り、建設された時代が最も古いとも伝えられています。

そうしたことから聖徳太子によって造られたという伝説が残されたのでしょうか。その記録が法隆寺に残されているともいわれています。推古天皇の十五年に掘られたが、もともとの付近は水不足から米がとれなかったとか。そこで聖徳太子が灌漑用に造り、この池の水で農地百七十町歩がうるおされたと伝えられています。

いま、旗尾池の周りは静かな一帯。池辺に植えられた桜や柳の木々が緑豊かな梢を水辺に張り出して、憩いのある風景を作っています。南側の堤はきれいに整備され、遊歩道が設けられています。堤の上からは見晴らしもよく、池辺を散策すると晴れ晴れとした気持ちになります。

水面に浮きが揺れる
釣り人たちの
分川池

西名阪自動車道に沿うように細長い形で広がる分川池。ここは毎日大勢の釣り人たちが集う釣り池となっています。池は東が幅広く、西は山が迫り狭くなっています。

水深は東側が深く、十二メートルに及ぶ所もあります。かつて池底には水を抜く底じというものがあつたそうですが、現在は上じという水抜きから農地への分水をおこなっているそうです。この池の水は周りの稲田をうるおしている、遠くは王寺辺りまで引かれているそうです。

この分川池は形から分かるように、もと谷間にあった川をせき止めて造られたといわれ、そこで川という字に池が重なっているそうです。土地の古きよると、川は流れがとて早く、水量もかなりだつたといえます。

また東池に張り出した半島のような一角には、太子堂があり、ここに水神さんが祭ってありました。今でも水の様様に感謝している人々たちがたくさんいます。これも香芝付近が水に恵まれない土地だからといえるでしょう。





二上山を望む 千股池の 静けさ

良福寺の西のはずれ、当麻町との境にある千股池は、その水面に二上山の二つの峰を映す絶景の場所にあります。ちょうど山の向こうに落日が入るさまは、水面に残照が光り、とても美しいものです。二上山の山裾から畑が続いて、その中を近鉄南大阪線の電車が走り抜けて行き、のどかで心やすらぐ風景です。

二上山と水は、切っても切れない縁があります。四月二十三日に行われるダケノボリは二上山のダケノカミに対する雨乞いの行事から始まったともいわれています。二上山の山影が届く範囲には、この風習が残されて来たといえますから、つまりはこの範囲は二上山に降る雨水の恩恵を受けたと言い換えることができます。

ダケノボリの伝説では、昔、山上において用便をして山を汚したといえます。そうすると翌日にはきれいに洗い流すように雨が必ず降ったといわれています。

もともと内陸性の気候に瀬戸内式気候が重なったこの一帯には降雨が少なく、そのために多くのため池が造られてきました。二上山の山裾のため池はこうした二上山に降り注いだ雨水が川となって流れ、それを灌漑用にしたためたものでした。

水鳥が遊び、風が池辺の草をそよがせています。のびやかな風景が広がっています。二上山に連なる山々の緑が目に見えるようです。



当麻曼茶羅の 伝説のある 蓮池

香芝市内には数多くの水や井戸、雷、そしてため池に関する伝説や言い伝えがあります。これも水の少ない土地柄を歴史的に表しているといえるでしょう。それだけに水への感謝、水への希求が強かったのだと考えられます。

別所の東、真美ヶ丘との境にある蓮池は、城山児童公園の緑豊かな環境にあります。この池の蓮が当麻寺へ運ばれて、中将姫が当麻曼荼羅を織ったと伝えられているそうです。現在は周りを緑地の樹木や整然とした宅地に囲まれていて、何の変哲もない池で、中世の伝説が秘められているとは思えないような風景です。

香芝市には、他に旗尾池の聖徳太子の伝説、狐井のまわし池、磯壁の葦池など池に関する伝説が残されていますが、壬申の乱など古代から中世といった遙か遠い時代を舞台にしたものが多いようです。

また穴虫（一上）の山口神社南や下田の弘法大師にちなむ弘法井戸、狐井のきつねの井戸、五位堂の五井戸、そして志都美神社の清水八幡井などの井戸に関する伝説も残されています。

こうした井戸や池に関する伝説や昔話が生まれたのは、それだけ水が貴重なものであり、人々にとって死活にかかわる問題だったからです。貴重な水を大事にする、その心がこのような伝説を生み出したのだといえるでしょう。